はなみずき

学校だより
鶴岡市立朝暘第四小学校
令和７年１２月２４日

「肉どんぶり」の思い出　～年末年始休業に

早いもので、今日で２学期も終了しました。熱中症、クマ、感染症予防等、ご家庭や地域の皆様方のご協力を得ながら、子どもたちは、安心・安全に、活き活きと力を発揮することのできた２学期でした。様々な経験を通し、共に喜び、はげまし合い、怒り、許し、折り合いをつけながら、**「集団生活」だからこそ経験できる学びの多い日々**だったのではないかと思います。明日からは**「家族での時間」をたっぷり味わえる期間**となります。そこで、年末年始休業にあたり、私が子どもの頃に経験した、忘れられない「家族との思い出」を「教育」とつなげながら書こうと思います。

あれは、私が小学校の低学年くらいの頃だったように思います。年末に差し掛かったある日、母が「頭が痛い」と言って寝込んでしまいました。その日は、父が仕事で、４歳上の兄も何故かいなくて、家には寝込んだ母と小さな私の二人しかいませんでした。私の母は、明るく丈夫でパワフルで、具合が悪くて寝込むなんて事は滅多になかったので、私は心配で何度も母の寝ている部屋を覗きに行きました。布団で壁の方を向いて寝ている母の姿は、いかにも具合が悪そうで、私は何とも心細い気持ちになりました。

早く母に元気になって欲しいと思い、何ができるか考えました。そして、「お昼にもなったし、お母さんもお腹が減っているに違いない。よし、何か食べるものを持って行ってやろう」と思いつき、冷蔵庫を開けました。冷蔵庫の中には、肉屋さんが届けてくれた肉が、紙に包まれて入っていました。私はとっさに「肉を食べればお母さんは元気になる」と思い、やったこともないのに、茶碗に「炊飯ジャー」からごはんを盛り、その上にたっぷりと「肉」をのせました。私はそれをお盆にのせ、箸までそえて、寝ている母の枕元まで運んでいき「お母さん、肉どんぶり作ったから食べて」と、母に言いました。寝ていた母はゆっくりこっちを向いて、私が運んできた「肉どんぶり」を見て、驚いていたようでした。

「母：これ、ガクが作ってくれたの」「岳二：うん、肉どんぶり食べて元気になって」

その後、母は少し考えて、「お母さんのために料理を作ってくれたの。ありがとう。ガクも頑張ってくれたからお母さんも頑張らないとね。」と言って起き上がり、私の作った「肉どんぶり」は食べないで、私の昼食を作るために台所に行きました。布団から起きた時、母は何故か少し泣いていたように見えました。でも、何だか嬉しそうでした。私は「肉どんぶり」も食べないのに、少し元気になったように見えた母に「肉どんぶり」をもう一度勧めました。すると母は優しくこう言いました。「お母さんのために肉どんぶりを作ってくれて、とっても嬉しいよ。ありがとう。でもね、肉は焼かないと食べられないんだよ」

親戚が集まると、今でも時々、この話が話題にあがります。若い頃は、ただの「笑い話」としか思っていませんでしたが、今は、少し違った意味での思い出になっています。誰かのために自分ができることを一生懸命に考え、行動すること。これは、紛れもなく愛であり、奉仕の心でもあります。あの時の母の涙の意味も、私のために具合が悪くても嬉しそうに台所に向かった母の気持ちも、今ならわかる気がします。

家族でゆっくりと過ごせる年末年始休業。どのご家庭でも、子どもたちからの小さな愛のメッセージを大切に受け止めていただくとともに、子どもたちへの愛のメッセージに溢れた、家族の宝物のような時間

がおくれますことを願っています。それでは、よいお年を。　　（文責：校長）